６　　女の　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　文法　連用形接続の助動詞①

読解　具体的内容をつかむ

いと近きほどのことに、身をいやしく富める男あり。家をあまた持ちたりけるが、家ごとに女を㋐かたらひ置きて家の内のことをうちあづけける。年ごろの妻なりける者を、今の新しき家の女そねむ心ありて、さまざまに不思議なるわざをなむしけるにや、にはかにせにけり。この家にもなくてはあしかりⓐぬべしとて、女をたづねて置きたりければ、これは年も若く、見目もことざまも㋑わりなかりけるうへに、物ひのことあらはれければ、今の妻にのみ添ひゐて、①もとの妻のもとにはにも通はずなりにけり。年ごろの妻を失ひⓑたるそのかひもなし。ますます思ひにのみ沈みけり。おのづからもとの妻のもとに行きたれば、また②今の妻あるまじきことに思ひけるほどに、互ひにそねむ心深かりける思ひや報いⓒけむ、この男あやしきさまにてにはかに失せにけり。

* 語注

不思議なる＝奇怪な。

ことざま＝人柄。

物呪ひ＝長年の妻に対して行った、「今の新しき家の女」の呪い。

おのづから＝偶然。

【原文】

いと近きほどのことに、身をいやしく富める男あり。家をあまた持ちたりけるが、家ごとに女をかたらひ置きて家の内のことをうちあづけける。年ごろの妻なりける者を、今の新しき家の女そねむ心ありて、さまざまに不思議なるわざをなむしける故にや、にはかに失せにけり。この家にも主なくてはあしかりぬべしとて、女をたづねて置きたりければ、これは年も若く、見目もことざまもわりなかりけるうへに、物呪ひのことあらはれければ、今の妻にのみ添ひゐて、もとの妻のもとには稀にも通はずなりにけり。年ごろの妻を失ひたるそのかひもなし。ますます思ひにのみ沈みけり。おのづからもとの妻のもとに行きたれば、また今の妻あるまじきことに思ひけるほどに、互ひにそねむ心深かりける思ひや報いけむ、この男あやしきさまにてにはかに失せにけり。

問一　次の「内容わしづかみ」の空欄に本文中の語句を書き入れよ。

ある裕福な〔　　〕が〔　　　　〕に女を住まわせていた。昔からの妻が死んだ後、空いた〔　　〕の〔　　〕として新しく住まわせた〔　　　　〕ばかりを男が訪れていたある日、偶然〔　　　　　　〕のもとに通うことがあった。〔　　　　　　〕と〔　　　　〕は互いにねたみ合うこととなった。

問二　波線部㋐・㋑の意味を答えよ（終止形でよい）。〈４点×２〉

㋐〔　　　　　　　　　　〕　㋑〔　　　　　　　　　　〕

問三　二重線部ⓐ〜ⓒの文法的意味と活用形を答えよ。〈３点×３〉

ⓐ〔　　　　〕〔　　　　〕形　ⓑ〔　　　　〕〔　　　　〕形

ⓒ〔　　　　　　　　　　〕〔　　　　〕形

問四　チェック問題　［連用形接続の助動詞①］

　次の傍線部を現代語訳せよ。〈１点×４〉

１　さきざきも申さむと思ひしかども、…（竹取物語）

２　組んづ組まれつ、討ちつ討たれつ、…（源平盛衰記）

３　ただ思ふ事とては、出家ぞしたき。（平家物語）

４　人もなきしき家は旅にまさりて苦しかりけり（万葉集）

１〔　　　　　　　　　　〕　２〔　　　　　　　　　　〕

３〔　　　　　　　　　　〕　４〔　　　　　　　　　　〕

問五　傍線部①について、

⑴　現代語訳せよ。〈５点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

⑵　男がこのようになったのはなぜか。最も適当なものを選べ。〈８点〉

ア　「今の妻」に心がかれたうえに、「年ごろの妻」に対する「もとの妻」の奇怪なしわざを知ってしまったから。

イ　「今の妻」のもとに自分が通うことに対する「もとの妻」の嫉妬が、ことのほか恐ろしいものであったから。

ウ　「年ごろの妻」の後に新しく住まわせた「今の妻」は家のことに不慣れなため、自分がいないと不都合が生じるから。

エ　「年ごろの妻」が亡くなったことで思い沈む自分を、「今の妻」が気遣って心を癒やしてくれていたから。

〔　　　〕

問六　傍線部②とあるが、ここでは「今の妻」はどのような感情を抱いているのか。二十字以内で答えよ。〈８点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問七　本文の内容に合致するものを一つ選べ。〈８点〉

ア　「男」は長年連れ添った妻を失い、彼女の実家からの援助がなくなったため、いつのまにか姿をくらましてしまった。

イ　「男」の妻たちの嫉妬心は、おしい相手であるはずの「男」の身までも滅ぼしてしまうほどに激しいものであった。

ウ　長年連れ添った妻を失った悲しみにくれるなかで、やがて「男」は新しく住まわせた妻に対する思いを募らせていった。

エ　自身の何気ない振る舞いが妻たちの怒りを買っていることに気が付かない「男」は、彼女らの怒りを不思議に思っていた。

〔　　　〕

【解答】

問一　男／家ごと／家／主／今の妻／もとの妻／もとの妻／今の妻

問二　㋐＝交際する　㋑＝格別である〈４点×２〉

問三　ⓐ＝強意（確述）・終止形　ⓑ＝完了・連体形

ⓒ＝過去の原因推量・連体形〈３点×３〉

問四　１＝思ったけれども、　２＝討ったり討たれたり、

　　　３＝出家がしたい。　　４＝苦しいことよ。〈１点×４〉

問五　⑴　もとの妻のもとにはめったにも通わなくなってしまった。〈５点〉

　　　⑵　ア〈８点〉

問六　夫がもとの妻と会ったことに対する憤り。（19字）〈８点〉

問七　イ〈８点〉

【現代語訳】

たいそう近い頃のことに、身分は低く裕福である男がいる。家をたくさん持っていたが、家ごとに女を交際して置いて家の中のことを任せた。長年の妻であった者を、今の新しい家の女が嫉妬する心があって、さまざまに奇怪なしわざをしたからであろうか、突然（長年の妻は）死んでしまった。（男は）この家にも主人がいないのではきっと不都合だろうと思って、（新しい）女を探して置いたところ、これは年も若く、見た目も人柄も格別であったうえに、（もとの妻が長年の妻に行った）呪いのことが露見したので、（男は）今の妻にばかり寄り添っていて、もとの妻のもとにはめったにも通わなくなってしまった。（もとの妻は）長年の妻を失ったその甲斐もない。ますますふさぎこむばかりであった。（男が）偶然もとの妻のもとに行ったところ、また今の妻はあってはならないことに思ったので、互いに嫉妬する心が深かった思いが報いたからだろうか、この男は奇妙な様子で突然死んでしまった。

【補充問題】（＊行数は本書に対応）

問１　「今の新しき家の女」（２行目）と同じ人物を表す表現を、本文中より抜き出せ。

問２　「この男あやしきさまにてにはかに失せにけり」（８～９行目）を現代語訳せよ。

【補充問題解答】

問１　もとの妻

問２　この男は奇妙な様子で突然死んでしまった。